

ツバメのヒナの30%は浮気相手の子
ラッコは子どもを誘拐して餌を要求する
イルカのオスは集団でメスを襲う etc..
イタリアで大人気のポッドキャストが本に！

2021年12月10日発売！

生きものたちの 「かわいくない」世界

動物行動学で読み解く、進化と性淘汰

ヴィンチェンツォ・ヴェヌート [著] 安野 亜矢子 [訳]
越井 隆 [イラストレーション]

【書誌情報】

判型：四六並製 | 価格：1,980円（税込）

頁数：320 | 発売日：2021年12月10日

ISBN：978-4-596-01711-6 C0098



株式会社ハーバーコリンズ・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役：鈴木幸辰）は、イタリアで話題のポッドキャストを元に、生物学者の著者がヒトを含む動物たちのセクシュアリティについて動物行動学の視点から案内する『生き物たちの「かわいくない」世界 動物行動学で読み解く、進化と性淘汰』を2021年12月10日に発売することを決定いたしましたのでここにお知らせいたします。

性的な衝動——それは動物を突き動かす衝動のなかで、最も強力なもの。生まれつき備わっている本能であるだけでなく、種の保存と進化の源でもあるからです。チャールズ・ダーウィンが定義した「進化」のメカニズムを理解する際に、キーワードとなるのは「突然変異」と「淘汰」。そしてダーウィンはメスによって導かれる進化のことを「性淘汰」と呼びました。

異性をめぐるシカやクジャクの戦い、オオコウモリの熱心な性行為、ツバメの気ままな浮気、ミツバチの階層社会、ペンギンの凶行——本書では世界各地に生息する動物たちの知られざる生態を紹介しながら、動物の世界をテーマ別に解説。動物の進化を知れば、人間の性の仕組みも見えてきます。

イタリアの生物学者によるユニークで赤裸々、性と社会をテーマにした大人向けの動物行動学。いざ授業の幕開けです！



生物が進化を遂げるのは、生存するためだけでなく、繁殖を有利に行うためである。性欲は交尾によって繁殖するすべての生物の行動を導く力だといえる。

40億年のあいだに、性欲はたくさんの生物を生み出し、世界をより複雑に、そして大所帯にしてきた。そのあいだ、オスとメスは静かな戦いを繰り広げてきた——

（「第1章 オスとメスの戦い」より）



【著者】 ヴィンツェンツォ・ヴェヌート Vincenzo Venuto

1965年ミラノ生まれ。生物学者。ミラノ大学で自然科学と環境科学を学び博士号を取得。主にオウムのコミュニケーションの研究に10年間取り組んだ後、2000年にテレビの世界へ。“Alive - Storie disopravvissuti (アライブ - 生存者の物語)”“Life - Uomo e Natura (ライフ - 人と自然)”など、数々のドキュメンタリー番組の司会者を務める。本書はシリーズ累計30万回以上聴取された同名の人気ポッドキャストの内容を加筆し書籍化したもの。

【目次】

はじめに
ゴリラのアレは○センチ

第1章 オスとメスの戦争

多様性を促す性交
オスチームとメスチームのゲーム
最強を求めるアカシカ
洗練を選ぶクジャク
肉体的ハンディキャップのあるカニ
芸術家肌のフグ
持ち家を競うズグロウコハタオリ
一生つがいのオウム
フリーライダーのヨーロッパキダグモ
一夫一婦制と一夫多妻制

第2章 求愛

異種間の交尾を避ける仕組み
メスの攻撃性を和らげる重要性
命がけの「落ちていてくれ」
モズの恋のメロディ
ダンス自慢のカタカケフクチョウ
ものまね自慢のコトドリ
オリノコワニの王者のメッセージ
イルカの贈りもの
ヒトの求愛

第3章 性行為

オウムのメロドラマ
快感にとりつかれたラット
乱交パーティを開くボノボ
オーラルセックスをするオオコウモリ
騙し討ちをするガーターヘビ
単為生殖のための快感
持つもの、持たざるもの
なぜ鳥類はアレを失ったのか？
性に熱心な哺乳類
なぜヒトの排卵は隠されているのか？

は第4章 浮気

浮気天国のツバメ
気の多いヨーロッパカヤクグリ
利益をもたらすアオガラの浮気
ヒトの浮気は何%か？
古代中国皇帝の浮気予防策
「妻の子どもは自分の子ども」
浮気という罪

第5章 家族

子を運命に託すオサガメ
マッチを持たされたタツノオトシゴ
優しいパパのアフリカウシガエル
子煩悩なマネシヤドクガエル
子を有毒にするヤドクガエル
オスを引き連れるアンコウ目
凶暴なシングルマザーのオリノコワニ
家族を作り直すメスのコモドオオトカゲ
メスからオスになるハタ
オスからメスになるイソギンチャク
祖母がリーダーのゾウ
メスが名トレーナーのシャチ
託児所をもつナミチスイコウモリ
ベビーシッターを引き受けるマッコウクジラ
なぜ哺乳類はよい父親ではないのか？
同性同士のつがい
3割が同性カップルのコアホウドリ
ヒトの家族の形
ヒトの家族はいつ誕生したのか？

第6章 社会

ミツバチのコミュニケーション
生殖力を持たない階層
群れのヒエラルキーとクーデター
ブチハイエナの女王
カリスマで統率するリカオン
ベルベットモンキーの献身

ベルベットモンキーの献身
贈りものを押しつけるアラビアヤブチメドリ
公平なノドジロオマキザル
リーダーになるためのヒトの行動
ヒトの男性のグループ、女性のグループ
ヒトの視覚コミュニケーション
ヒトの先天的な言語能力
ヒトと動物の絆

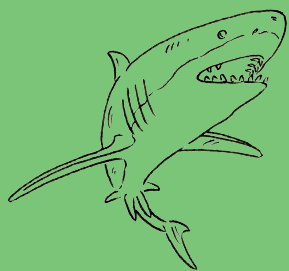
第7章 暴力と逸脱

薬物漬けのキツネザル
フグをおもちゃにするイルカ
毒キノコを食べるヒグマ
猛毒のオオヒキガエルを舐めるイヌ
なぜ有毒な薬物を摂取するのか？
お酒をたしなむ動物たち
マルーラの実で酔っ払うゾウ
凶悪なアデリーペンギン
ジャイアントパンダの性欲を刺激する方法
ボルノ映像を好むアカゲザル
体で取引するチンパンジー
メスを拉致するハンドウイルカ
欲求不満のマガモの暴力
子どもを誘拐するラッコ
ヒトの罪の意識

第8章 老い、死、そして愛

チンパンジーの葬儀
死なない動物
100年以上生きたピンタゾウガメ
パートナーを失ったインコ
喪に服したシャチ
息子を亡くしたゴリラ
仲間を弔うゾウの群れ
死者を埋葬するヒト

おわりに



【本書より】

ペニスが2本あるサメ

潮の流れや高波の影響を受ける海中で交尾をするサメにとって、交尾が簡単なものでないのは明らかだ。だからこそ、オスは一度の交尾につき1本しか使わないペニスを2本も持っているのだ。一方、サメのメスにとって交尾が簡単なものでないのは、しっかりとものを掴む手足を持たないオスが、メスの背ビレと胸ビレを歯で噛んで固定しようとしてくるからだ。そのため、メスの背中の皮膚は、オスよりもはるかに厚くできている。

角を見せびらかすアカシカ

1年の大半を単独で、もしくはほかのオスと過ごしていたオスのアカシカは、交尾の準備を整えたメスを求めはじめる。繁殖期がやってきたのだ。オスは自分の魅力をアピールするために尿をまき散らすので、空気中にはテストステロンの匂いが漂っている。うなり声や力強い鳴き声は、自分の体の大きさを相手に伝える。声の響きが深いほど、それを発する動物の体は大きいからだ。その声を耳にした小さな動物は、危険を避けるべくすぐさま逃げていく。
この時期になると、やわらかい草木からの栄養で1年かけて成長してきた大きな角は、硬く鋭くなり、いつでも戦いに使える凶器と化している。深い響きのある声と太い首を持つ、年をとったオスの周りにメスが集まってくる。



【本件に関するお問い合わせ】

株式会社ハーパーコリンズ・ジャパン一般書籍編集部 PR：金／担当編集：新田
TEL：03-4213-0830 | Email：press@harpercollins.co.jp